

# 「埼玉県 企業局」様

●所在地/埼玉県さいたま市浦和区高砂3-15-1 ●TEL/048-822-9614 ※取材先/大久保浄水場  
●mcAccess使用状況/mcAccess e (2006年導入・41台利用) ●取材日/平成20年12月1日

## 水道水の安全と災害時の給水をmcAccess eがバックアップ

緊急時の供給体制も万全に、平常時の作業連絡と非常時の最終通信手段のために導入。



埼玉県企業局の林 玄さん。

### 安全で安心な水を安定供給する企業局

埼玉県内の工業用水道事業や水道用水供給事業、地域整備事業を行う埼玉県企業局様。中でも水道水は、県内5か所の浄水場から埼玉県内の各市町に供給され、各家庭へ送られます。

「安全で安心な水を安定供給する」のが我々のモットーです。日常生活はもちろん、地震や洪水、

テロなども想定し、有事でも給水を確保できるように万全の体制を整えています」と埼玉県企業局水道施設課の林 玄さんは話します。

### 低コストと信頼性を兼ね備えたmcAccess e

埼玉県企業局様は、昭和48年からアナログ防災無線を使用していましたが、機器の老朽化と故障時の部品が製造されておらず、非常時の通信手段の確保に不安を持っていました。緊急時に

使用でき、埼玉県全域で使用できる mcAccess e を知り、平成18年に導入されました。現在は県庁および各浄水場に計41台が設置されています。

mcAccess e 導入にあたり、一番の決め手となったのはコスト面と利便性

でした。

「無線機器の更新や免許申請、保守メンテナンス費用などを考えたとき、一般のアナログ防災無線は、どうしてもコストがかかってしまう。その点、mcAccess eは初期導入費用もランニングコストも抑えられる。また、過去の災害時でも安定した通信が確保できていたこと、水を供給している埼玉県内全域(秩父を除く)をすべてカバーできる通信エリアの広さも導入の大きなポイントでした。従来のアナログ防災無線はノイズが多く、相手の音声を鮮明に聞き取れませんでした。非常にクリアな音声で送受信できるので便利です」

### 緊急時にはmcAccess eで情報収集

埼玉県内で大地震が発生した場合は災害対策本部が設置されます。「埼玉県災害対策本部要領に基づく配備体制」が敷かれ、各部局が対策を講じます。災害は地震と風水害等の2つに分類されています。

例えば、地震発生時は、震度5弱を「初動体制」、震度5強を「緊急体制」、震度6弱以上を「非常体制」とし、3段階で配備体制をとっています。「緊急体制」では職員が出動し、各施設の被害状況を確認します。

「その中でも、企業局は給水部として、施設の安全確認をはじめ飲料水の確保や給水に関わる活動を行います。浄水場の機能がストップし、給水できなくなった場合は、給水車などを使って各



緊急時には指令局が置かれている管理室から各作業部隊へグループ通信を行い、各施設の被害状況の確認や点検結果を報告し合います。

市町村に水を送り届けることが使命です」

さらに、企業局では昨年、独自の大規模震災訓練が実施されました。訓練は「朝から夕方までの約12時間、電話は一切使えない状況で、連絡手段はmcAccess eのみ」という設定で行われ、内容も制水弁の操作訓練や応急給水訓練など、臨場感溢れる現場での訓練を実施したとのこと。「同じ訓練を繰り返しているとマンネリ化してしまうので、訓練内容のマニュアル化はしていません。埼玉県の地震被害想定に則して、中でも水に特化した訓練を行っています」。

昨今、地震が頻発する中、非常時の給水確保は重要な課題になっています。

「阪神・淡路大震災や新潟県中越地震などの災害時は、飲料用としての水は救援物資としてペットボトルで送られてくるため意外と用意されています。しかし、トイレやお風呂、洗濯用の水の確保に苦労したという話を数多く聞きます。我々



県内で最大規模を誇り、県南部17自治体に給水する大久保浄水場では、携帯機4台と車載機5台が置かれています。

は普段から設備の点検をすることを心がけ、万が一そのような事態になっても、必ず皆様のもとへ水をお送りできるよう準備しています」

誰もが安心して水を利用できるよう、県民の命と健康を守り、生活を支えている埼玉県企業局様。mcAccess eはその安全の一部を担っているのです。

### POINT

- 初期導入費用等が抑えられる
- 通信エリアが広範囲
- 一斉通信、グループ通信が可能
- 緊急時、災害時に使用できる



災害時に備え、水道水の貯水をしているPC浄水池。訓練では水漏れがないかなどを点検します。